

日本で22件目の世界遺産



▲世界文化遺産として登録された野首集落跡に建つ旧野首教会(長崎県・野崎島)

世界遺産とは

●**世界遺産** 世界遺産とは、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)にもとづいて登録されている遺跡や文化的価値の高い建造物、貴重な自然環境などをいいます。これらを保護し、未来の世界に伝えていくことが世界遺産条約が採択された目的です。日本は、1992年に世界遺産条約に加盟しました。2018年7月現在の世界遺産登録件数は1092件で、うちわけは文化遺産が845件、自然遺産が209件、両方の要素をかね備えた複合遺産が38件となっています。

●**登録の流れ** 世界遺産に登録したい候補のある国は、候補地の暫定リストを提出します。その上で原則として1年に1件ずつ候補地についての正式な推薦書をユネスコの世界遺産委員会に提出します。ユネスコでは専門家による調査を行い、毎年開かれる世界遺産委員会で登録するかどうかを決定します。

●**日本の世界遺産** 日本では1993年に白神山地と屋久島が世界自然遺産に、法隆寺地域の仏教建造物と姫路城が世界文化遺産に、初めて登録されました。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が登録されて、22件になりました。政府は、「百舌鳥・古市古墳群」を世界文化遺産に推薦し、2019年の登録をめざしています。日本は、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の2018年の世界自然遺産登録もめざしていましたが、国際自然保護連合(IUCN)から登録延期を勧告され、推薦を取り下げました。

潜伏キリシタン関連遺産

2018年6月、バーレーンの首都マナーマで第42回ユネスコ世界遺産委員会が開かれ、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産として登録されました。2017年10月には、「朝鮮通信使に関する記録」と「上野三碑」が記憶遺産として登録されました。



この遺産は、どのような点から、評価されたのだろうか？

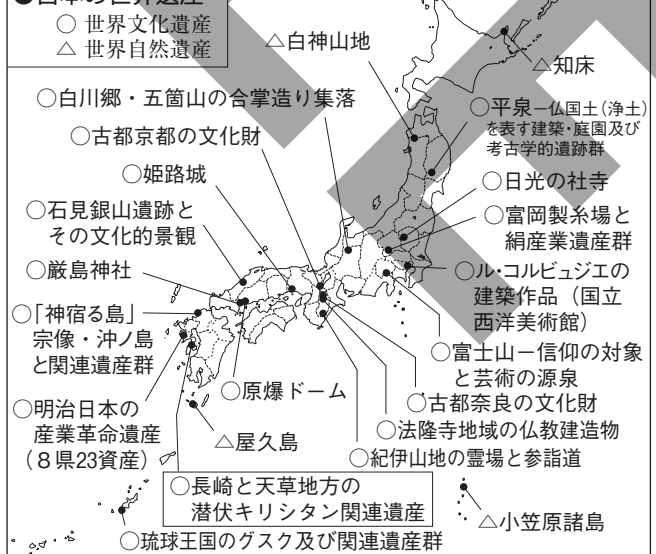
キーワード

ユネスコ (UNESCO)

国際連合教育科学文化機関の略称で、国連の専門機関の1つである。本部はフランスのパリにあり、日本は1951年に加盟した。教育、科学、文化を通じて、世界の平和と安全をはかることを目的としている。

●日本の世界遺産

- 世界文化遺産
- △ 世界自然遺産



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」

●**かくれキリシタン** 江戸時代の初めに、幕府はキリスト教を禁止しましたが、長崎、大分、熊本など九州各地のキリスト教徒が「かくれキリシタン」として、約250年、ひそかに信仰を守り続けました。江戸時代の終わり、開国後に長崎に外国人人居留地がつくられ、1865年に**大浦天主堂**という教会がつくられました。このとき、かくれキリシタンが神父に信仰を告白したことは、ローマ教皇が「東洋の奇跡」として感動したといわれます。日本では「信徒発見」とよばれる、このできごとから150年となる2015年に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録をめざしました。

●**先送りと取り下げ** 内閣官房の考えで「明治日本の産業革命遺産」の推薦が優先され、キリスト教関連遺産は1年先送りとなりました。さらに、ユネスコの諮問機関である**国際記念物遺跡会議（イコモス）**から禁教・潜伏期にしばらくこむべきだという評価が示され、推薦をいったん取り下げました。教会中心ではなく、禁教期の遺跡や、集落を中心とした構成に変更し、遺産名も変更しました。その結果、2018年の世界遺産委員会で、高い評価を受けて登録にいたりしました。

●**構成資産の内容** 12の構成資産は大きく4つに分けられます。

○**原城跡** キリスト教が弾圧されるきっかけとなった**島原・天草一揆**の主戦場のあとです。

○**平戸の聖地と集落、天草の崎津集落、外海の出津集落と大野集落** 貝がらのもようを聖母マリアに見立てたり、キリスト教伝来に関係する山や島をおがんだりなど、くふうをして信仰を続けた集落です。

○**黒島の集落、野崎島の集落跡、頭ヶ島の集落、久賀島の集落** キリシタンが未開地などに集団で移住して共同体を維持した集落です。

○**江上天主堂、大浦天主堂** 教会がつくられ、「潜伏」が終わったときの教会です。

朝鮮通信使の記録と上野三碑が記憶遺産に登録

2017年10月、「朝鮮通信使に関する記録」と「上野三碑」が「世界の記憶（記憶遺産）」に登録されました。これまで世界で登録された代表的な記憶遺産としては「**アンネの日記**」、「**マグナ・カルタ**」などがあります。日本の記憶遺産は、今回の2件をふくめて7件となりました。「朝鮮通信使に関する記録」は、朝鮮国王が徳川将軍にあてた国書など日本と韓国の333点の記録です。「上野三碑」は、群馬県高崎市内にある、飛鳥時代から奈良時代に建てられた3基の石碑です。古代に、上野国（現在の群馬県）に朝鮮半島から移住した渡来人がもたらした文化と交流を示す資料です。

●12の構成資産



キーワード

大浦天主堂

長崎市にあるカトリックの教会。現存する日本最古の教会。むかし、キリスト教カトリックのことを天主教とよんだことがあり、その教会が天主堂といわれた。

イコモス (ICOMOS)

国際記念物遺跡会議。非政府組織 (NGO) で、ユネスコの世界遺産に関しては、諮問機関として登録の審査や評価を行っている。

島原・天草一揆

1637年に、島原半島南部と天草諸島の農民が、禁教や重税に反対しておこした一揆。

アンネの日記

ユダヤ人の少女アンネ・フランクの日記。ナチスによる迫害を避けるためアムステルダムに家族らとかくれ住んだ生活の記録。

マグナ・カルタ

イギリスのジョン王が貴族らに圧力を受けて1215年に出した文書。王が税をとる権利を制限し、「法による支配」を定めた。